

from the world
世界の国から

ボツワナ共和国

Republic of Botswana



レイトウメツェ・アピリ氏

ボツワナ輸出振興投資局 (BEDIA)
国際市场部 マネージャー

Ms. Reitumetse APHIRI
Manager, International Markets
Botswana Export Development and
Investment Authority (BEDIA)

首都 ハボロネ
面積 約58.2万平方キロメートル
人口 188万人(2007年 世銀)
政体 共和制
元首 セレツェ・カーマ・イアン・カーマ
大統領
言語 英語、ツワナ語
通貨 プラ



南部アフリカのハブとして

豊かな自然とグッド・ガバナンスを誇る国

ボツワナは南部アフリカに位置する内陸国で、日本の1.5倍の国土を有しています。その大部分がサバンナに覆われ、多種の野生動物が息し、世界遺産として有名なツォディロやオカバンゴ湿地帯、チョベ国立公園など観光資源には事欠きません。また、政治的に安定しており、治安が良く、市場原理が働くなどアフリカで最も汚職の少ないグッド・ガバナンスの国といわれています。居住環境、ビジネス環境共に恵まれています。国民性は日本人と共通するところがあり、職業意識が高く、いつも笑顔で、礼儀正しく、時間を厳守するという文化も根付いています。

産業の多角化を推進

1966年の独立時より安定した政治体制の下で、平均10%近い高い経済成長を続けており、2008年の時点で一人当たりのGNIが6,470ドル(世銀)とサブサハラにおいては南アフリカとともに際立って

高い水準を誇っています。ボツワナは世界有数のダイヤモンド産出国であり、これまで国の経済の大部分をダイヤモンドに依存してきました。しかし、現在は、銅、ニッケル、マンガン、石炭といった他の鉱物資源の開発も進み、産業の多角化が進められています。こうした豊富な鉱物資源の輸出の他に、牛肉・牛皮などの畜産業が盛んでヨーロッパを中心に製品が輸出されてきましたが、最近ではこれらを国内で加工し、付加価値を高めています。

さらなるインフラ整備に向けて

インフラ整備も進んでおり、特に電力の供給に関しては豊富な石炭を利用した新たな火力発電所の建設や既存設備の拡充が盛んです。他方、太陽光発電にも力を入れており、近い将来近隣諸国へ40万メガワット規模の電力供給も計画されています。交通インフラの面でも、周辺諸国へのアクセスが良好で、南アフリカのダーバンまでの鉄道網が充実し、カラハリ横断鉄道の建設なども計画されています。人材面でも、政府が教育を国の最重要課題と位置付けており、識字率も85%を越える勢いで更なる改善が見込まれています。また、インターネットは農村地域まで発達し、携帯電話が広く普及する

など情報面での整備も進んでいます。

投資先としての将来性

ボツワナの人口は188万人と市場規模は小さいのですが、近隣諸国と積極的に友好平和路線を構築しています。南部アフリカ開発共同体(SADC)の事務局が首都ハボロネに置かれ、金融経済も安定しており、豊富な資源を有する南部アフリカ経済の中核を担っています。海外からの製造業投資に対しては、優遇税制が適用されます。個人所得税は25%、法人税は15%とアフリカ大陸では最低水準の税率となっており、本国への利益や配当金の送金も可能です。ボツワナは海外からの投資・技術移転を今後の経済成長の大きな柱と考えています。日本からも電力セクター開発のための技術移転や、組立工場の進出、インフラ整備など多方面にわたる参入を期待しています。

ハボロネ市街(ザ・モール)



写真提供：まりえ/松本 和人



オカバンゴ湿地帯